

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究－質の保障・向上システムの構築に向けて
研究代表者	野澤 祥子 (東京大学・大学院教育学研究科・准教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、保育の質が子どもの発達やストレスに及ぼす影響過程を解明し、保育の質の保障・向上に向けた自治体の取組を把握することで、自治体の取組を構想・実装しようとする研究である。</p> <p>日本において保育の質に関するデータが乏しい中、「過程の質」をどう評価するかという問題を孕みつつも、「構造の質」「過程の質」の両面からアプローチする本研究の実用・政策的価値は高く、社会的課題に応える波及効果が期待できる。また、研究グループの研究能力は高く、研究環境も十分に整っている。</p>